

重要 サポート会員・両方会員さんへ

「緊急救命講習及び事故防止に関する」講習について
今年度より国の要綱が改正され、援助をおこなう会員全員に上記講習会を受講していただくことになりました。そこで、今後ファミリー・サポート・センターだよりなどを通じて開催のご案内をします。開催日程等確認し受講していただきますようよろしくお願いいたします。子どもさんを安全にサポートするための大切な講習会ですので、皆さんと一緒に学びましょう。



センターからのお願い

♥会員みなさまへ

住所、連絡先の変更や、出産情報(赤ちゃんの名前や生年月日など)は、必ずセンターにお知らせください。

♥利用会員さんへ

サポート会員さんへ援助をお願いしたら、センターへ連絡してください。(無届の場合は、保険の対象になりません。)

♥サポート会員さんへ

活動報告書は、翌月の5日までの提出となっております。ご協力をお願いします。

ご注意ください!

・お引越しなどで、センターからの文書が宛先不明で返ってきたり、連絡がとれない場合は、退会処理をさせていただきます。

・子どもさんが産まれても、センターに登録がないとサポートの対象とならない場合がありますので、必ずセンターにご連絡ください。

・登録された子どもさんが小学校を卒業(子どもさんに障がいがある場合は18歳まで)された方は、退会の手続きをさせていただきます。

会員さんのお知り合いの方にお知らせください。

会員になるための講習会を開催します

日時：令和2年2月16日(日) 託児あり
9:30~12:00(利用会員)
9:30~16:00(サポート会員・両方会員)
場所：リナシティかのや(2階) 情報研修室

*必ずお電話でお申込みください。
TEL 44-2277

お気軽にお問合せ
くださいね
(=・o・=)

【問合せ先】

社会福祉法人 鹿屋市社会福祉協議会 (鹿屋市ファミリー・サポート・センター事務局)

〒893-0009

鹿屋市大手町1番1号 リナシティかのや 2F 鹿屋市市民交流センター 福祉プラザ内

電話：(0994)44-2277 FAX (0994)44-7757

Eメール：fami-suppo@kanoyasyakyou.jp

センター開設時間 9:00~17:00/月~金(土日・祝日・年末年始は休みです)



鹿屋市

No.26

2020年1月発行

ファミリー・サポート・センターだより



暖かな日差しとともに新年がスタートしました。

会員の皆様には、日頃から当センターへ多大なご理解とご協力をいただき、地域における子育て支援が順調に継続されておりますことに対し、心から感謝いたします。

当センターでは、昨年からのサポートの利用件数が増加するなど、ますます地域での子育て支援の必要性を感じているところです。

本年も、安全で安心な体制づくりを通して、子どもたちの成長を末永く見守っていけるよう、職員一同努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

全体交流会



“楽しく体を動かすレクリエーション”

令和元年7月17日(水)社会福祉会館にて開催
講師 健康運動指導士 川尻 彰 先生



令和元年度の 全体交流会は こんなことをしました(=^・^=)

♥楽しく体を動かすレクリエーション

～先生のかけ声に合わせてゲーム感覚で体を動かしながら頭も使いました～
リズムに合わせて、それっ!!



ん・・・あたまが混乱して思うように体が反応しない(-_-)



うまくできないんだけど、なんだか楽しいな～(#^.#^)(^o^)

♥体験発表(中村さんと吉田さん)



～利用会員さん、サポート会員さんの貴重なお話でした～



♥グループで情報交換



利用会員さんとサポート会員さんが一緒にテーブルを囲み、子育てのことや楽しい情報交換で交流を深めました。

◆利用会員さんの体験発表

現在、育児休暇中で職場復帰を目指しています。夫の仕事が忙しいため夫に頼らないように育児をしています。子どもは可愛いし育児について苦労しているとは思わないのですが、本来ひとりの時間が必要な性格のため、息がつかまる事が多々あります。体調管理・ストレス発散などをしたかったものの、月齢が低い子どもを人に預けることには抵抗がありました。しかし、サポート会員さんと事前に面接をして人柄を知ることが出来ましたし、親切に娘のことをしっかりみてくれたので、安心して預けることができました。サポートを利用することでリフレッシュでき、家事育児に対して心身ともに余裕が出来たように思います。ワンオペで悩んでいるお父さんお母さん方に、育児をしながら自分を大切にするための選択肢の一つとしてサポートを利用してもらいたいと感じました。



*ワンオペとは仕事や家事、育児などを一人でこなさないといけない状態で、ワンオペ育児ということもあります。

◆サポート会員さんの体験発表

何か役に立つことがあればと考えファミリー・ホムに参加しました。3歳の女儿を保育園に迎えに行きお預かりすることからはじまりました。おにぎりやお菓子などを提供し、おもちゃで遊んだりアンパンマンなどの動画を観ながら、お迎えが来るまで一緒に楽しく過ごしました。お預かりが始まってしばらくして保育園の先生から女儿が随分かわってきたことを告げられ、嬉しかったことを覚えています。あれから6年、3人に増えた姉妹のホムをしています。私自身が子育てをしていた頃は、主人の両親が常に子供たちの面倒を見てくれていたので、何の心配もなく過ごすことができ、幸せだったなと感じています。



子ども(赤ちゃん)の人見知りにつ

今回、「人見知り」というテーマで情報を掲載させていただきます。

◆人見知りはいつからはじまるの？

一般的には、生後半年から1歳ごろにかけて始まる人が多いようです。子ども(赤ちゃん)にも個人差があるため、始まる時期も違いがあります。なかには人見知りをしない子(赤ちゃん)もいるようです。



◆知らない人、慣れていない人への反応

泣きながら嫌がる子ども(赤ちゃん)もいれば、ちょっとびっくりしたように固まるだけという子ども(赤ちゃん)もいます。



◆人見知りはいつ終わるの？

子ども(赤ちゃん)の人見知りは、だいたい2歳ごろには落ち着くことが多いようです。人見知りが始まる時期と同様に個人差があるようです。

◆なぜ突然人見知りが始まるの？子ども(赤ちゃん)の成長の中でどのような変化があるの？

生後6ヶ月ごろになると、赤ちゃんは自分の手や足を自分の一部と認識し、自由に動かせる感じを得ます。ちょうど、寝返りができたり、えびそりのポーズをしたり、すり這いができる頃です。この頃から、自分と他人の境界線が生まれ、親(最も身近にいる存在)を認識できるようになります。この時期に知らない人や普段あまり会わない人に近づかれたり、抱っこされたりしそうなると人見知りが見られます。周りの環境に少しずつ慣れようとしている成長の過程だといわれます。赤ちゃんの心理状態としては、「近づきたい」という好奇心と「怖い」という恐怖心が同時に芽生えて葛藤しているという研究例があります。



◆人見知りの対処法は？

♥優しく語りかける

♥声のトーンを落ち着かせ、ゆったりとした口調



♥時間をかけて慣れさせる♥
子ども(赤ちゃん)が落ち着き、自分から興味を示すようまで

♥月齢の近い子と遊ばせる

♥同世代の子どもに興味を向くことで大人に対する警戒心が薄れるようす



◆場所見知りもあります。

出かけた先で、子ども(赤ちゃん)が泣きだすと人見知りだと思いがちですが、初めての場所や慣れないところでは、場所見知りの可能性もあります。そんな時は、子ども(赤ちゃん)が安心してできるよう抱っこをしながら優しく話しかけ、それでも落ち着かないようであれば、いったんその場所を離れるようにしましょう。

愛着関係の構築について

赤ちゃんにとって親(最も身近にいる存在)の顔は、心地よい状態や安心感をもたらす象徴となります。親(最も身近にいる存在)への愛着関係を基本として、おじいちゃん、おばあちゃん、保育園の先生など、ふだんよく接する人にも徐々に愛着関係を広げ

